

営農だより 第2号

- 目標
- ①『米ぬか入り肥料』の施用により、循環型農業の実践
 - ②粒張が良く、食味値 80 点以上の良食味米



一人ひとりの取組意識が

「ごてんぼこしひかり」のブランド力を高めます

向こう 1 ヶ月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、晴れの日が多い予報です。昨年 4 月も暖かい日が多く、徒長苗やムレ苗が散見されました。今年もハウス内の気温が変わりやすい気候ですので、育苗の温度管理には充分注意しましょう。

良食味米栽培にとって『播種・育苗』が最も重要な時期となります。昔から**苗半作**と言われるように、苗の良し悪しはその後の稲姿に大きく影響します。①薄播きすること、②温度管理、③水管理に充分注意を払い、活着の良い充実した苗を育て、今年度も**粒張が良く食味値 80 点以上のお米**を作りましょう！！

今回は育苗管理を中心にをご紹介します。気象庁は今年の夏も厳しい暑さになると予想しています。丈夫な苗を作り、気候に左右されない米作りを目指しましょう。

《苗管理》

〔育苗器で出芽させた場合〕

芽が出揃ったらハウスに広げラブシートで保温。(3日間を目途に被覆し、緑化を促す。)

ただし、出芽から緑化期までは、低温に注意する。

保温シート(ラブシート、ミラシート etc)や窓の開閉で温度管理を行う。

緑化後は・・・**昼間 25℃以上**にしない。⇒ハウスの開け閉め。

夜間 10℃以下にしない。⇒午後早めにハウスを閉め、温度を下げない。

〔ハウスで出芽させる場合〕

播種した育苗箱をハウス内で平置きにし、シルバーラブなどで被覆し保温させる。

全ての芽が出揃ったら緑化に向けた管理を行う。

※ミラシート、シルバーラブのかけすぎに注意!!

晴天時、密閉状態のハウス内は1時間で10℃以上温度が上昇します。

焼き苗防止のため、外出の際は換気対策を十分に行いましょう。

※プール育苗では保温資材は不要

プール育苗では水位を均一に保ち、高温にならないよう注意しましょう。

霜注意報が発令した場合は深水にしましょう。

(緑化以降であれば、霜が降りなければハウスを開け放しても大丈夫です。)

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

2025年(令和7年)4月4日
北駿産米改良推進協議会
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
TEL : 0550-84-4820

播種～	2～3日間	4～15日	16日～田植えまで
被覆	3日間を目途に出芽。ハウスに並べた箱からラブシートをかける。	約3日間被覆する。緑化終了の目安は第1葉が完全に展開した頃。	日中は被覆資材不要、夜間冷える時は早めにハウスを閉める。
温度	昼	30℃	20～25℃
	夜	30℃	15～20℃
灌水	播種時に床土に1～1.2ℓ/箱程度灌水。	基本的には1日1回。雨の日は量を減らすか、やらない。	1日1～2回。14時頃までに灌水。夕方は灌水しない。夜温が下がると根張り低下。
換気	30℃以上になる場合は換気を行う。	25℃以上の場合ハウスを開ける。	日中はハウスを全開にし、外気に慣らす。風には直接当てない。
その他	うど芽の長さは10mm以内。長いと徒長苗になりやすい。	緑化し、第1葉が完全に展開したら徐々に日光に当てながら自然環境に慣らす。温度・水管理に気を付ける。	ハウス内の角等は灌水不足で葉が巻きやすいので注意する。苗の葉に異変を見つけた場合は速やかにハウスの外に出す。
プール育苗		緑化期以降は灌水管理となり、昼夜とも窓は開放状態。霜注意報等で10℃以下が予想されない限りハウスを閉める必要はない。(緑化したら水を入れる。)	

緑化して、2.0葉期(播種から約15日)以降は、田植えに向け外気温に徐々に慣らしていきます。ただし**10℃以下にならないように朝晩の保温に注意しましょう。**

この時期の灌水は『朝たっぷり』を基本に1日1回程度とし、昼間乾くようであれば14時までに追加で灌水し、夕方になっての灌水はやめましょう。(夜温が下がると根張りが悪くなります。)

保温資材一覧



ラブシート

ポリエステル長繊維不織布。適度な遮光と通気で、高温多湿、乾燥状態に陥ることなく、白化現象や葉焼けからも保護します。



ミラシート

ポリエチレンシートで断熱性に富み、丈夫で保温力が抜群です。長期間のシートかけすぎはカビの発生を助長するので注意が必要です。



シルバーラブ

アルミの断熱効果により、育苗期間中の急激な温度変化や夜間保温にも効果があります。水分の蒸発を抑え床土に適度な水分を保持し、灌水の省力化が図れます。出芽後は必要条件に応じて、シルバー面と不織布面の別開閉による管理が可能です。

《苗の病気》 ~苗の菌による苗立枯病の症状は下図の4つです

◎エコ栽培米で「エコホープ DJ」を使用した場合は緑色のカビのようなものが発生することがありますが、この場合は薬が効いている証拠ですので問題ありません。

病原菌	病徴・診断	農薬	発病条件	発生した様子
リゾープス属菌	発芽～緑化初期に退色し生育が悪くなる。地面より上方に灰色のカビが一面に発生。	ダコレート水和剤	高温・多湿条件下で発生。	
フザリウム属菌	地際部の葉鞘が褐変腐敗し、白色又は淡紅色のカビを生じる。	ダコレート水和剤 タチガレエース M 液剤	播種後低温にあたり、床土の乾燥・過湿の繰返しによる。	
ピシウム属菌	地際部や根が水浸状に腐敗し、白い綿状のカビを生じる。	タチガレエース M 液剤	低温・過湿条件下で発生。	
トリコデルマ属菌	葉鞘や不完全葉が黄化・褐変・枯死し・粃や床土に白いカビを生じ、後に青緑色になる。	ダコレート水和剤	高温・過湿条件下で発生。	

播種にタチガレエース M 液剤を施用した苗、JA 育苗センターで苗を購入された方はタチガレエース M 液剤は施用しない。※JA 苗は施用済みです。またダコニール 1000 を散布した苗でタチガレエース M 液剤を散布する場合は、ダコニール 1000 の散布 10 日後以降に行う（薬害発生の恐れあり）。

JA 推奨肥料体系 ~地力でお米を作ろう~

(10a 当たり)

	基肥		穂肥
分けつの取れにくいほ場	マップ 055 (30kg)	+ 米の精肥料 7号 (60kg)	基本は穂肥なし。 しかし、高温時には生育後半の肥料切れが懸念されます。生育巡回を利用し、必要があれば穂肥を施用しましょう。
分けつの取りやすいほ場	基肥有機 820 (37kg)	+ 米の精肥料 7号 (60kg)	
ペースト肥料田植え機	ネオ・ペースト1号 (25kg)	+ 米の精肥料 7号 (60kg)	

基肥有機 820 の粒型についてお知らせ

令和 7 年度より、「スーパー有機 820 20kg」が「基肥有機 820 20kg」に変更となりました。今までと粒の比重が異なるため、肥料の落ちる量が変わる可能性があります。最初の散布時に注意し、調整しながら散布をお願いします。

品名	スーパー有機 820 (従来)	基肥有機 820 (新規)
比重	0.88	0.83
粒状		

《田植え》

慌てて田植えを行うと、後々手間がかかってしまうことが考えられます。田植え時、田植え後は以下のことに注意し、より良い稲づくりをスタートしましょう！！

★薄植えを心がけましょう

分けつが多くなると粃にならない無効分けつが増えてしまいます。

★浅植えを行いましょう

浮き苗の出ない程度に浅く植えましょう。



浅植えすると分けつが早く確保でき、茎や根がしっかり開帳する。

深植えすると分けつが抑制され、地温が上がらないと発根も抑制される。

★田植え直後は深水にして苗を寒さや風害から守る

稚苗の活着限界温度は 12℃です。深水で苗を保温してあげましょう。寒い日、夜間冷える日、寒風が吹く時にも深水にして水の保温力で苗を保護します。

